

黒羽芭蕉の館だより ②7

「弁財天三星図」(小泉斐筆)

今回は、齋藤フサ氏(黒羽田町)より一昨年度、当館に寄贈いただいた作品を紹介いたします。

江戸時代後期に活躍した黒羽藩の絵師、小泉斐(当時43歳)が文化9年(1812)に描いた「弁財天三星図」です。紙本墨画で、掛軸に仕立てられています。本紙の寸法が縦169・5cm、横93・2cmという大幅です。

童子を抱きかかえる弁財天(学問・技芸の神で福財を授ける)や、亀を手にする寿星(寿老人)、蝙蝠を持つ福星、および禄星が描かれています。多子・長寿・幸福・俸禄という吉祥イメージの絵です。小泉斐(1770~1854)は、黒羽藩領芳賀郡益子村(現益子町)の鹿島神社神官木村家出身で、幼い頃から絵を好み、島崎雲圃に師



「弁財天三星図」
(小泉 斐筆)

事しています。幼名を勝、後に光定、字を桑圃・子章といい、檀山・檀山人・青鸞・檀森齋・非文道人などと号しました。後に那須郡桜田村(現大田原市中野内)の温泉神社小泉家の養子となり、神官・画家として活躍しました。

小泉斐といえは鮎の絵が有名ですが、実に多くの画人・文人らと交流し、個性豊かな画風を確立しており、そのバラエティー豊かな作品群は、高く評価されています。50歳より黒羽城北端の鎮国社の神官となつて、黒羽藩主大関氏に仕えながら、画事を追求し、多くの門人を育て上げました。

今回紹介した作品は、現在、当館大関記念室において、同じく小泉斐筆の「黒羽城鳥瞰図」「黒羽周辺景観図」とともに展示しています。7月31日(水)まで展示予定となっておりますので、ぜひご覧ください。

問

黒羽芭蕉の館

TEL (54) 4151

彫刻

市内で作られた作品とその作者

周遊 56

このコーナーは、「那須野が原国際彫刻シンポジウム」で公開制作、設置された作品とその作者を連載で紹介いたします。

この作品は湯けむりふれあいの丘の北側駐車場の入口から真直ぐ南に向かって100mほど進んだところにあります。

作品は白御影石のイス1つと黒御影石のイス1つが一对となったもので、互いに向かい合つて設置されています。

それぞれのイスはサイコロ状の石から一回り小さいサイコロ状の石を取り除いたような形で、残された部分が背もたれと肘置きを担いました。側面は外側も内側



Place of Speculation (思いが巡る場所)

キム ジョンミ
Kim Jung-Mi 韓国 2005年

もしっかりと磨き上げてありますが、上面のみは、切り出したままの自然な石の凹凸が残っています。



キム ジョンミ 氏

題名から察するに、この作品は2人、あるいはそれ以上の数人が互いに語らう議論や交流の場になる事を望まれたのでしょうか。

作者は韓国出身のキム・ジョンミ氏。梨花女子大学を卒業後、イタリア在住韓国人芸術家展に出展。イタリア、スイスなどで個展を開催し、1997年にはイタリアのカラーラ国立芸術大学大学院を卒業。2003年に韓国・スペイン彫刻シンポジウム2003に参加後、本シンポジウムに参加しました。

設置場所案内図(★印)



問 文化振興課 湯 TEL (98) 3768